

魔槍使いに祝福を

神月零

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

佐藤和真の弟蒼真も死んでしまい特典としてFateのクー・フーリンとスカサハのゲイボルグをもって転生した。

魔槍をもった少年の物語である。

# 目次

プロローグ	1
第1話冒険者登録	3

## プロローグ

1

佐藤和真の弟佐藤蒼真は兄が死んで数日後に誘拐されそうになっていた子供を助けたはいいもののその後ナイフ刺されてころされてしまった。

「ようこそ佐藤蒼真さん。不幸なことにはあなたは死んでしまったのです。私は女神エリスです。本来なら私の先輩女神アクアがあなたを導くのですがアクア先輩とはある理由でできなくなってしまいましたので私が代わりにやらせてもらっています」

「そうですか・・・」

白い髪の美少女女神エリスは状況を説明をしてくれた。

「貴方にはいくつかの選択肢があります。一つはこのまま天国へ行くという選択肢。天国と言っても一日中日向ごっこかもしくは雑談をするしかすることがないのですけどね」

「却下ですね」

即答であった。当たり前であったそんなところ行きたいとは思えない。エリスは苦笑していた。エリスは次の選択肢に移った。

「二つ目は記憶を消して転生です」

「うーん」

記憶を消して転生は妥当といえれば妥当であるがだからと言って割り切れるものでもない。蒼真は悩んでいるとエリスが更に

「記憶を消して転生もどうかという方にお勧めな選択肢がありますよ。三つ目の記憶を引き継ぎ特典をもって転生です」

「じゃあ、それで」

定番といえれば定番であった。蒼真の兄和真がそういう系統の小説や漫画が好きだったからである。願ってもない話である。

「それではこの中から選んでください。あと希望がありましたら言ってください。可能な限り特典とします」

「じゃあ、Fateのクー・フリーンとスカサハのゲイボルグを」

蒼真はFateが好きであった。中でもスカサハとクー・フリーン

の宝具ゲイボルグが好きな為である。

「分かりました」

「あとすいませんけどその槍を出現してほしい時だけ出現ってできますか？」

「はい、あなたの魔力によって出現するようにしときますね」

紛失防止のために頼むとエリスは頷いて答えた。三本のゲイボルグを渡すと蒼真はそれをしまった。

「詳しい説明をしますね」

異世界であるため言語が違う。その為覚えさせてくれるということと異世界についてのことを教えてくれた。冒険者ギルドの冒険者登録に必要なお金千エリスをエリスが渡すと

「ではその魔方阵に乗ってください」

言われたとおりに蒼真は魔方阵に乗ると光出した。

「佐藤蒼真さん。願わくばあまたある勇者候補の皆さんの中であなたが魔王を倒してくださいることを。魔王を倒した暁にはいかなる望みを叶えましょう」

## 第1話冒険者登録

1

漆黒の髪に赤い瞳にブレザーを着た少年佐藤蒼真が転生した場所は中世ヨーロッパの街並みであった。まさにファンタジーの世界の定番な世界であった。

「兄さんも来ているだろうし後で探してみようかな。取り合えず冒険者ギルドに向かつてみるかな」

そう言つて歩き始めていた。場所を近くの人たちに聞いてそこに向かった。

2

冒険者ギルドにつくと扉を開けた。受付嬢のいる方に歩いて向かった。

「冒険者登録をお願いしたいんですけど」

「はい、では手数料として千エリスになります」

受付嬢のルナに言われた通りにエリスから貰った千エリスを渡した。

「確かに受け取りました。では説明をさせて頂きます」

ルナは丁寧に説明してくれた。冒険者には各職業があり、ステータスの数値によつてなれる職業ある。戦士系、魔法系、プリースト系がありプリーストは回復魔法や浄化魔法やサポート系であるが最初からなれる者が少ない。戦士には武器によつて変わるそうだ。それ以外は最弱の冒険者と魔法戦士系である魔法戦士系はあまり数が多くない。何故なら最初からなれる人が少ない上にステータスを上げても魔法系なら魔法系の上級職アークウィザードになる方が早い。戦士系も同じ理由である。魔法戦士は基本的には付与魔法を得意とする職業である。冒険者は教えて貰えばあらゆるスキルを習得するがステータスが低く戦士にもウィザードにもプリーストにもなれない人になる職業な為最弱職といわれている。

登録カードにはいくら討伐したのかも記録されてスキル習得に必要なスキルポイントも表示され、スキル習得にも登録カードが使われ

る。

「ではこの水晶に手をかざしてください」

言われた通りに手をかざすと水晶の下にあつた登録カードに水晶が書き込んでいった。

「ええええええええええええ!? なんですか!! これ!? 魔力、筋力、敏捷が平均を遥かに越えています! それ以外も耐久以外は平均を越えています。耐久が少なめですがこれなら滅多にない魔法戦士職にもなれます。しかもどれも上級職です。ルーンランサー、ルーンセイバーなどの他にもソードマスター、ランスマスター、アークウイザードにもなれます」  
ルーンランサーとはウイザードランサーの上級職である。ルナの大きい声に回りの人の視線が蒼真に行った。

「じゃあルーンランサーでお願いします」

「はい、それでは冒険者ギルドにようこそサトウソウマ様。スタッフ一同今後の活躍に期待しています」

すごい賑わいになっていた。今いる冒険者ギルドのメンバー全員が蒼真を見ていた。